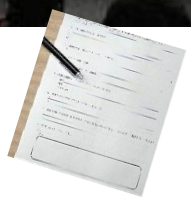
しが学校支援センター

「地域の力を学校へ」推進事業の実践　≪2025(R7)年度実施校≫



コード（分野）	2601　（8. 人権･国際理解）
メニュー名	JICA海外協力隊体験談
校園名(学年)	県立湖南農業高等学校　2年36名
講師･支援者等	独立行政法人　国際協力機関関西センター(JICA)　国際協力員　三越様
学　習　名	「バングラデシュ　紛争国の話」
教　科　等	総合的な探究の時間
実　施　日	令和7年 11 月 19日（水）　13:30～15:15

《授業の流れ》

[当日の流れ]

①　5時間目：第2学年4クラスの生徒が、関心のある4つのテーマに分かれて授業を受ける。
　　学年のメインテーマ「戦争と平和」

テーマ別 A　滋賀県内の戦争被害について（滋賀県平和祈念館　村田様）
　　B　韓国・朝鮮の戦争の歴史について（渡来人歴史観　大澤様）
　　C　ウクライナ紛争（滋賀県国際協会　光田様）
　　D　ロヒンギャのことを知ってほしい、関心を持ってほしい(取材)

②　6時間目：第2学年全員で意見交流会

[D での授業取材]…JICA　三越様

<u>授業のテーマ</u>「ロヒンギャのことを知ってほしい、関心を持ってほしい」

1　自己紹介
海上自衛隊→海外青年協力隊→東京都職員→立命館大学発ベンチャー→英国 Bradford 大学院→外務本省経済協力員→国連 WFP コックスバザール地域事務所→JICA 国際協力員

2　ロヒンギャ難民危機とは
・難民の生徒イメージ：紛争から逃れてきた人、生活に困っている人々
・ロヒンギャとは…国際的な保護を必要とするため、出身国を逃れてきた人
（ミャンマーから宗教の関係で迫害されてバングラディシュに逃れて難民キャンプで生活している人々。約 120 万人。(世界で約 200 万人)）
・動画（ロヒンギャ難民キャンプの様子）を視聴して、WFP の仕事について説明。

3　今ある人道危機
・教育、仕事、住居等の現実について
教育:小学校～中学校まで（行ける人は少ない）仕事:キャンプ内で指示（対価報酬が払えない、仕事無い）住居：掘っ立て小屋
・マザーテレサの言葉「愛の反対は、○○である」○○にはどんな言葉が入ると思いますか？？
生徒:憎しみ、無関心…

４　まとめ

・今日の大テーマ：ロヒンギャを忘れないで！！関心を持って！！

５　質疑応答

・難民キャンプの人員構成は（高齢者がいない：逃げ遅れるため）
　誘拐事案（16,17 歳男性が多い：ミャンマーで兵士にするため）
　日常の様子は(仕事もなく、毎日ぼーっと過ごす）（キャンプ内でも貧富の差が大きい）
・問いかけ：もし皆さんがロヒンギャ難民だったら…

６　六時間目に、全生徒が集まり、テーマごとに意見や感想を交流し合う時間を設定された。
（第６限）

＜感想等＞

生　徒

＜5 時間目のＤでの授業の感想＞

・難民の苦しみがどれだけきついかを現地で感じたいと思った。人助けをしたいと思った。
・今もお腹がすいて苦しんでいるのかと思うと、私はどれだけ幸せなのだろうと感じた。
・1か月 2000 円でお腹がいっぱいになるとは思えない。
・「愛の反対は無関心」という言葉がとても印象に残っている。

・少しでも興味があったら知っているはずなのに、教えてくださった内容はどれも知らないことばかりでした。
・自分と年齢が同じ子が誘拐され、戦っていると聞き、とても驚いた。

＜6 時間目意見交流会の時間の感想＞

・やっぱり一番大切なのは、お互いに話し合って分かり合うことだと思った。
・平和は突然消えるかもしれないと思った。なので、1日1日を大切に過ごしていきたいと思う。
・「戦争は若い人たちに責任はない。だけどくり返さない必要がある。」の言葉がとても印象に残った。
・目を背けたくなる過去もしっかりと学び、どんな事があったのかを理解して学び続けようと思った。
・戦争はダメだと歴史でたくさん教えてもらったけど、実際に今でも戦争がおきている。
・私たちは何をしたら今回のウクライナの戦争がなくなるのか考えた。

学　校(先生方)

・本日の人権学習を通して、戦争や平和の問題が遠い過去の出来事ではなく、今、私たち一人一人が考え行動すべき課題であることを改めて実感しました。
「自分はどう行動するのか」という主体的な問いを持ち続けることの大切さを、教員である私自身も深く考えさせられました。
・今回得た気づきを一時的なものに終わらせず、継続的に取り組める仕組み作りが必要だと感じました。

講　師　・　取材者

＜講師＞

・WFP（国際連合世界食糧計画）では、飢餓で苦しむ人々に食料を届けたりしているが、8億人もの人が待っているため追いつかないのが現状である。つまりは9人に1人が食べることができていない。

ロヒンギャと呼ばれる難民も、約120万人いて、草津市の 1/3 くらいの土地内でひしめき合って生活している。日本の平和からすれば考えられない現実が世界にはたくさんあり、常に人道危機にさらされている。そういう意味で、ロヒンギャを例に、こういった現実に関心を持って、忘れないでほしい。

＜取材者＞

・今までユニセフの資料や他の人道支援機関情報により、飲み水がない国事情や栄養失調でなくなっていく子どもたちの現状は知っていたが、ロヒンギャ難民のことを初めて知って絶句した。
世界の宗教事情は非常に残酷な現実を突きつける。しかし、ありとあらゆるものが発展したこの21世紀途上において、今なお世界の一部の人の心が退化しつつある現状は悲しい。
私たちは、現実から目を背けず、世界の現状に関心を持ち、未来を担う子どもたちに呼びかけていかなくてはならないと強く感じた時間となった。